

# 響



ひびき

〒384-0006  
小諸市与良町6-5-5  
TEL.0267-31-0251  
FAX.0267-31-0140



令和3年12月22日  
No.7



関  
わ  
り  
の  
合  
図  
。

## 響 第7号 「関わりの中で」 -もくじ-

授業から学ぶ	「書きたい」につながる支援の工夫 国語	②
研修の窓	丁寧に捉え 歩みに寄り添う 第2回外国籍等児童生徒指導研修会	③
研修の窓	学校の人権教育目標に向かって、 意図をもって 第2回学校人権教育連絡協議会	④

自分の考えや、自分なりの答えが見えてきたときは、「これでいいだろうか」と少し不安な顔を見せたり、「あの人はどうだろう」と周りを見渡したりする。それは、子どもが一歩踏み込んで、友だちと話してみようとする合図。

不安だった自分の答えや、見えていなかった自分自身を、その関わりの中で、見つけることができるかもしれない。



「響ひびき」これまでのバックナンバーはこちらからご覧になれます。  
本誌掲載の実践などのより詳しい内容については、事務所までお問い合わせください。



授業から学ぶ  
(3学年・国語)  
「書くこと」



# 「書きたい」につながる支援の工夫

A先生は、子どもたちが意欲的に書くために、単元展開を工夫し、ICT端末を活用したり、友だちとのやりとりを位置づけたりして、子どもたちの「書きたい」という気持ちを引き出しています。

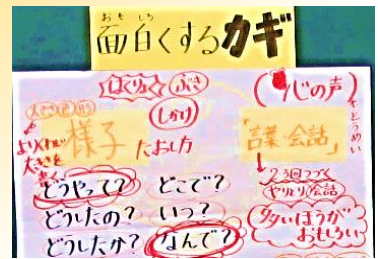
## 単元名：お話を面白くしよう (たから島のぼうけん)

宝の地図をから想像した冒険物語を書く授業です。友だちとアイデアの交換をしながら、各自あらすじを考え、物語を書いています。

### ポイント「面白くするカギ」を見つけ、さあ書こう！

A先生は、物語を「面白くするカギ」を潜ませた例文を提示しました。子どもたちは「比べてみると、面白くするためにポイントがあるんだね」と気づき、1場面ずつ書き始めました。自分たちで「カギ」を発見したことで、どの子も意欲的に始めることができました。

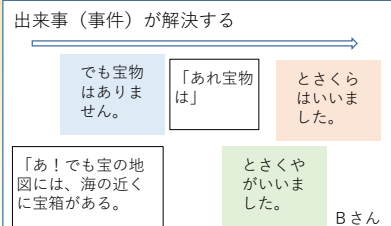
### 「面白くするカギ」の発見



### ポイント「付せんツール」でどんどんメモしよう！

アイデアを文章にしていくときには付せんツールを使いました。1場面ごとシートを区切り、その中の付せんに、1文ずつ記述していきました。少しずつ書き進められ、書き直しも容易なことが、ツールを使うよさです。

### 付せんツールの活用



### ポイント 課題に気づき、さらにグレードアップ！

書いた後は相談タイム。小グループで読み合います。友だちの物語を読んだBさん。自分の物語には、事件が実際に解決する場面がないことに気づきます。

Bさんは「ワニをたおした様子」を書き加えたくなり、同じ班の友だちに相談しました。

Bさん：ワニをたおすところ、どうしたらいい？

Cさん：主人公がたおしたことにしたらいいよ。  
どっちが主人公？

Bさん：二人とも主人公

Dさん：『ワニに向かって剣を振り回しました。』  
そして……

Cさん：『剣を振りまくって』……

Bさん：で、『たおす』がいいよ



やりとりしながら共に考え合おうとしている姿が素敵な3人です。Bさんは、友だちのアドバイスをもらい、もっと面白くしたいと、時間いっぱい言葉を考え、書き続けました。

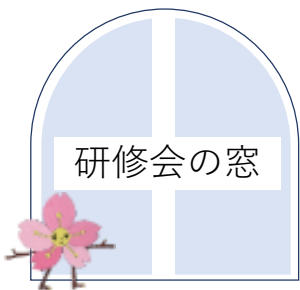
Bさん



一人で書き進めるよりも、友だちからアドバイスをもらって書くほうがアイデアが出て、言葉も増えてきました。

「こうすれば書けそうだ」という見通しが、「書きたい」「もっとよくしたい」と大きく膨らんで、子どもは自分の力で走り出すことができました。子どもの“意欲”は、学習を一層深く、充実させますね。





## 丁寧に捉え 歩みに寄り添う ～第2回外国籍等児童生徒指導研修会より～

上田市立神川小学校の日本語教室では、子どもたち一人一人に寄り添ったサポートを通し、言葉の使い方をあれこれ考え、学習の楽しさを感じる子どもたちの姿を目指しています。

<実践発表から>

3年生の子どもたちは社会見学で消防署に行きます。そこでは、消防士さんに直接質問をする学習が計画されています。そこで、日本語教室のA先生は、場に合った言葉づかいを学ぶよい機会と捉えて、Bさんと一緒に質問を考えることにしました。

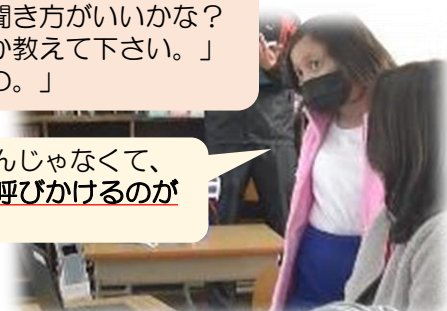


消防士さんに、丁寧に質問したいんだね。じゃあ、「ねえねえ」はそのままでもいいのかな？

消防車の台数を尋ねるとき、どちらの聞き方がいいかな？

- 1 「消防署には何台消防車があるのか教えてください。」
- 2 「ねえねえ、消防車って何台あるの。」

突然質問するんじゃなくて、ねえねえって呼びかけるのが大事。丁寧。



突然話しかけたのでは失礼だと考えているBさんに、A先生は、「ねえねえ」に変わる丁寧な言い方はないかな、と優しく尋ねます。

丁寧な言葉づかいで質問してほしいと思ったA先生ですが、Bさんの呼びかけたい気持ちを大事にして、「呼びかけ方はこのままでいいのか」とBさんの気持ちに寄り添った声がけをしました。



考えるBさんと同じ目線で支援するA先生

Bさんは、お家の方や先生が使っていた表現を思い返しながら何度も言い方を比べているうちに、「すみません」がいいかなと考え、

「すみません。消防署には何台消防車があるのですか」とメモしました。その場に合った言葉づかいを自分で考え、決めることができたBさんは、嬉しそうに何度も練習していました。自分で考えて選んだ表現だからこそ、上手に言えるように繰り返し練習したくなったのでしょう。

A先生の、Bさんの思いや考えに寄り添った支援が効果的に働き、積極的に取り組む姿につながりました。

日本語指導教室に通う子どもたちは、日本での生活経験や学びの進度など様々です。A先生の、まずはじっくりと子どもたちの様子を見て、どんな願いや思いがあるのかを捉えることを心掛ける姿勢、子どものありのままを受け止め、その子の学びを見守りながら粘り強く関わっていく姿に学びたいと思いました。



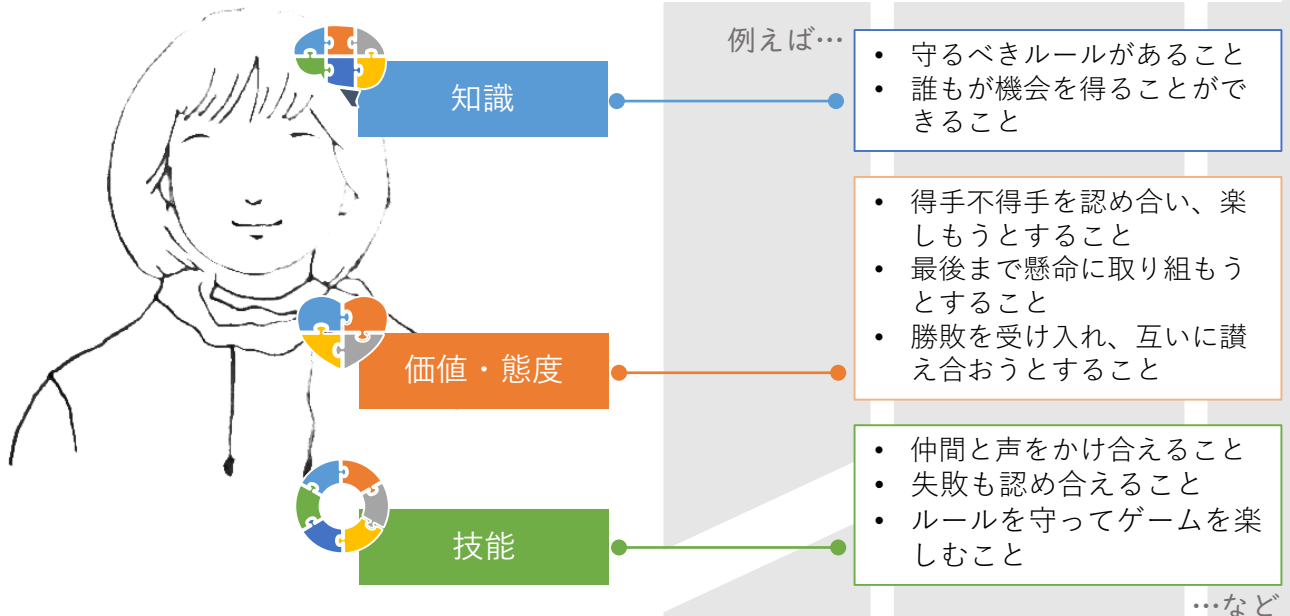


## 学校の人権教育目標に向かって、意図をもって ～第2回学校人権教育連絡協議会より～

今回は、代表校による取組の発表と、各学校での取組や実践上の課題等を話し合う機会となりました。ここでは、人権課題を解決するための実践力の育成に向けて、共通認識されたことを改めてまとめます。

### 1. 実践力は全ての授業で意図をもって育まれていく

(例) 体育の授業におけるゲームの場面で、教科としてのねらいの達成とともに、実践力につながる3つの側面(知識、価値・態度、技能)を意図して育成する場合。



直接的に人権課題を扱っていない授業においても、3つの側面を、その授業で扱われる内容や行われる学習活動に関わりをもたせ、教師の意図によって具体的に働きかけることで、実践力は育まれていきます。人権課題に関わる直接的指導に留まらず、学校が掲げる人権教育の目標や願う子どもの姿を目指し、日々の授業で意図をもって育むことが大切です。

### 2. 教師の姿は、意図せず子どもに届いていく

